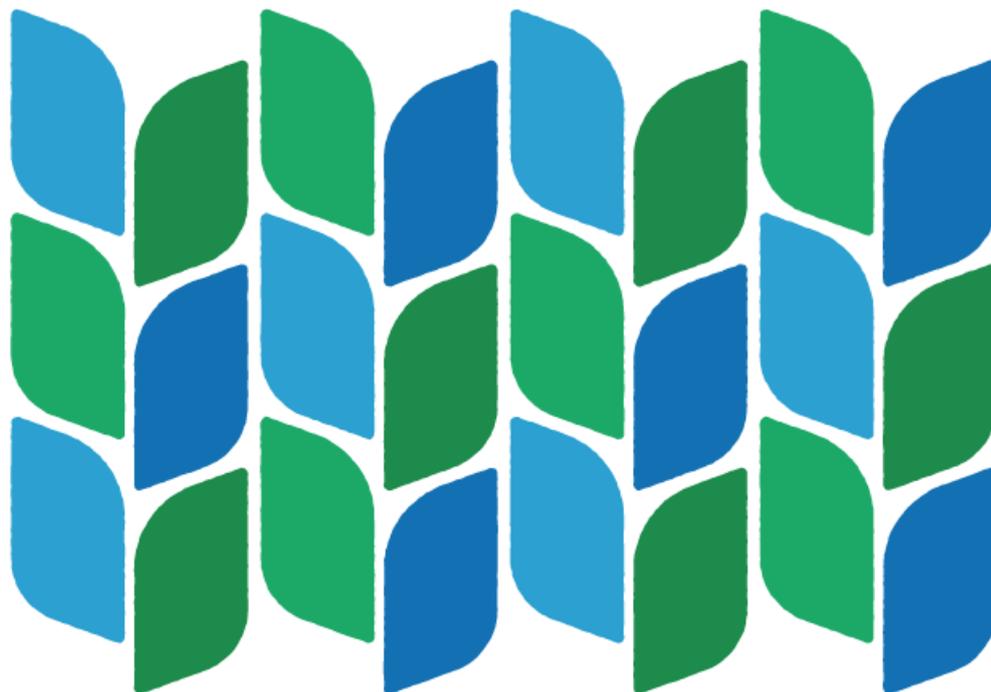


令和7年度
那須塩原市議会「なすの会」
行政視察報告書



視察地 : EXPO2025 大阪・関西万博
視察日 : 令和7年7月27日(日)～28日(月)
視察内容 : 那須塩原市とリンツ市の合唱団による合唱コンサートについて

視察地 : 兵庫県相生市
視察日 : 令和7年7月29日(火)
視察内容 : 子育て応援施策「11の鍵」について

【参加者 : 小島 耕一 佐藤 一則 金子 哲也 三本木 直人】

万博国際合唱交流プログラムについて

視察地 大阪・関西万博会場

視察日 令和7年7月27日(日)、28日(月)

報告者 小島 耕一

大阪・関西万博の概要

開催期間 4月13日(日)～10月13日(日)

開催場所 大阪市 夢洲

テーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」

持続可能な社会実現のために、進化した技術やモノの紹介のみならず、「いのちとは」、「いきるとは」、「幸せとは」などの根源的な問いかけを含め、多種多様なパビリオンで発信する。

コンセプトに「未来社会の実験場」を掲げ、空飛ぶ車やEVバスなどのスマートモビリティ、世界中からアクセスできる「バーチャル万博」などを提供する。

万博国際合唱交流プログラムの概要

那須塩原市とリンツ市の合唱団による合唱コンサート

日時 7月27日(日) PM3:00～5:00

場所 大阪・関西万博会場

ポップアップステージ北会場

内容 那須塩原市の中学生と姉妹都市オーストリア・リンツ市の音楽学校アダルベルト・シュテイフター校の合同合唱団によるコンサートを行った。

合唱曲 両国の国歌やオーストリアの国民的楽曲「アイアム フロム オーストリア」、日本の童謡や唱歌 役10曲



満員のポップアップステージ北会場

那須塩原市とリンツ市の合唱団、大阪府豊中市(豊中ピアノ他)、沖縄県沖縄市(エイサー他)の3団体によるコンサート

日時 7月28日(月) PM2:00～4:00

場所 大阪・関西万博会場

EXPOメッセ「WASSE」

内容

那須塩原市の中学生と姉妹都市オーストリア・リンツ市の音楽学校アダルベルト・シュテイフター校の合同合唱団に加えて、沖縄県沖縄市のエイサーの歌や踊りのグループ、大阪府豊中市の豊中ピアノを演奏するピアニストと合唱団の3団体によるコンサートを行った。



会場には、那須塩原市の映像などを映し、来場者にピーアールをおこなった。

明治の森の青木周蔵邸や大山巖の記念碑前の紅葉通りなど、日本遺産に指定される施設や史跡を映すことによって、本市の理解が図られた。



曲を紹介するミヨシ・アンナ・ユカリさん

その他、那須塩原市の大阪関西万博出展

那須拓陽高校生徒の創作料理販売

期日 7月27日(日)、28日(月)

場所 オーストリアパビリオン

内容 那須拓陽高校生徒がリンツ市のエルムベルグ料理学校等の交流や東京都白金台の結婚式場「八芳園」の監修の下、上厚崎の洋菓子店「菓子工房ねむの樹」が協力して、オーストリアの 伝統菓子「リンツアーアウゲン」をアレンジし、創作料理を開発した。開発した商品をコーヒーと一緒に100食提供した。

所感

日本でこれまで開催された1970年「大阪万博EXP070」、2005年、「愛・地球博」に引き続く、3回目の万国博覧会「大阪関西万博」が大阪市夢洲で開催され、那須塩原市がイベントに参画したことは、本市のピーアールに大きな成果を上げた。また、オーストリア、リンツ市との姉妹都市との絆を強めるとともに、大阪府豊中市や沖縄県沖縄市との交流により、新たな交流の輪を広げることができた。加えて、参加した中学生には大阪関西万博で歌声を披露した人生で大きな思い出を作ることができ、今後の新たな取組みの糧となることが期待される。



曲を紹介する那須塩原市の中学生

今回の大阪関西万博への参加は、明治期の那須塩原市に農場を拓いた青木周蔵がドイツの外交官時代にエリザベートと恋に落ちて、結婚し、その子孫がオーストリア、リンツ市に住んでいたことが始まりとなっている。この歴史が、リンツ市との姉妹都市提携につながり、東京オリンピックのオーストリア選手団の受入れや今回の大阪関西万博の参加につながっており、このレガシーを今後も引き続き続けていくことが、本市のPRや発展につながっていくと考えられる。



満員で盛り上がるEXPOメッセ「WASSE」

合唱団のコンサート会場は、どちらも満員となり、多くの方々に素晴らしい歌声を届けられたとともに、那須塩原市のピーアールも十分できたことを報告し、所感としたい。

テーマ 大阪関西万博、国際合唱交流について
視察地 大阪・関西万博会場
視察日 令和7年7月27日(日)、28日(月)
報告者 金子 哲也

那須塩原市と姉妹都市リンツ市の学生による合唱団の大阪万博を会場とした合唱コンサートの応援をかねて、視察を行いました。

大阪・関西万博では、会場のまわりに円を描いて建てられた木造の柱による回廊に驚かされました。4階建てぐらいの高さがあり、屋上からの眺めは、散策するには十分な風景でありました。

大勢の人が来場している中で、空いている会場を探しながら歩きました。ベトナムの会場は、那須塩原市が友好を進めていることから、親近感を持ちながら見学することができました。

予約の取れた三菱未来館では、地球の誕生から46億年の歴史と未来に向けての地球のいとなみを想像させてくれる大スペクタクルの映像を見ることができました。

大阪関西万博、国際合唱交流について

那須塩原市の中学生と姉妹都市オーストリアのリンツ市の音楽学校アダルベルト・シュティフター校の10名の高校生と一緒に合唱しました。



合唱コンサート

両国の国歌を歌ったあとに、日本の歌「ほたるこい」、次に、オーストリアのチロルの歌を披露しました。

両国の若者が一つになって、心に触れる歌声を作り上げていくことがどんなに感動をよんでくれたことか、素晴らしい企画となりました。

私は、心から「ブラボー、ブラウイッシモ」と叫んだところであります。



満員の観客

野外コンサートプログラム

- 1 両国国歌
- 2 ほたるこい
- 3 Im der schonen
- 4 Fruhjahrzeit
- 5 夏の童謡メロディ
- 6 Hasbacher jodlet
- 7 カイト
- 8 I am from Austria
- 9 沖縄ポップスメロディ
- 10 アンコール2曲

テーマ 大阪関西万博、LOCAL JAPAN 展 合唱交流
について

視察地 大阪・関西万博会場

視察日 令和7年7月27日(日)、28日(月)

報告者 三本木 直人

大阪関西万博を会場とした那須塩原市と姉妹都市リンツ市の学生による合唱団のコンサートの応援をかねて、視察を行いました。

大阪・関西万博のEXPOメッセ、「WASSE」会場において、LOCAL JAPAN 展の企画で、「未来への協奏、いのち響き合わせるステージ」という題で、大阪府豊中市、沖縄県沖縄市、栃木県那須塩原市とオーストリア、リンツ市との合唱団の3団体のコンサートが行われました。



那須塩原市 渡辺美知太郎市長の挨拶

一番目は、沖縄市が発表し、沖縄民謡や獅子舞が演じられ、最後はエイサーで盛り上がりました。



沖縄市の獅子舞

次に、大阪府豊中市のピアノ演奏の数々が行われました。



豊中ピアノの演奏

3番目には、那須塩原市の中学生と姉妹都市オーストリアのリンツ市の音楽学校アダルベルト・シュティフター校の10名の高校生と一緒に合唱しました。

演目は、日本の歌「ほたるこい」、次に、「夏の童謡メロディ」、「I am from Austria」などが披露されました。



那須塩原市中学生とリンツ市の合唱

最後は、4市合同による合唱のカチャシーでおおいに盛り上がり、会場の人たちに感動を呼び起こしました。



感動的な4市のフィナーレ

「定住・子育て支援事業」について

視察地 兵庫県相生市

視察日 令和 7年7月29日

氏名 佐藤 一則

【相生市の概要】

造船業の町

明治期までは瀬戸内海に面した典型的な漁村であった。明治終期に、船の建造・修繕のための施設「船渠」(ドック)が完成した。住民らは「わしらのドック」と呼び、誇りにした。以来、造船業は相生の看板産業として発達し、昭和30年代に年間の進水量で世界首位に立った。播磨造船所、石川島播磨重工業など造船会社名は変遷を繰り返し、現在はジャパソマリニティ子会社のJMUアムテックがドックを構える。第二次大戦後、大型船の新造が禁止され、一旦は町の灯が消えかかったが、1951年10月18日の捕鯨船団の母船「凶南(となん)丸」は、再び造船の町として歩み始めた。凶南丸は、戦争末期、米軍の爆撃を受け、南太平洋の海底40メートルに沈没。眠っていたものを播磨造船所が引き上げに成功し、ドックでの改修を担ったものであった。第三凶南丸には完全な凶面が残っておらず、実測で凶面をそろえるなどした上で、連日2000人超が昼夜を問わぬ突貫工事に従事し、クレーンの争奪戦がおこるほど現場は熱気にあふれていたという。播磨造船所の年間売り上げの約半分を要したこの大事業での技術力は、国内外で高く評価され、「凶南丸」と改名され、1970年まで日本の捕鯨を支えた。

【地理】

西播地区の真ん中位置にあり、鉄道や幹線道路も比較的整備されている。

北部の三濃山、東部の天下台山、西部の宮山などを含め、市の周辺は小高い山に覆われた盆地のようになっている。

南部には瀬戸内海の中に深く入り組んだ相生湾がある。万葉の岬こと金ヶ崎や、遠

見山公園などからの眺望がある。北部には播磨科学公園都市がある。

姫路市への通勤率は14.9%、たつの市への通勤率は10.7%である。(平成22年)

面積 90.40 km²

人口 28,355人(令和2.10.1国調)

26,889人(令和7.4.1現在)

世帯数 11,806世帯(令和2.10.1国調)

12,995世帯(令和7.4.1現在)

【当初予算】

令和7年度 (単位：千円)

会計区分	金額
1. 一般会計	13,950,000
2. 特別会計(4会計)	
(1) 国民健康保険	2,888,000
(2) 看護専門学校	233,000
(3) 介護保険	3,025,000
(4) 後期高齢者医療保険	662,000
小計	6,808,000
2. 特別会計(2会計)	
(1) 病院事業	788,247
(2) 下水道事業	3,461,247
小計	4,249,494
総計	25,007,494

【議会の概要】

1 議員

(1) 議員数 定数：14人 現員：14人

(2) 任期 令和9年4月9日

(3) 報酬等 区分

議長 495,000円

副議長 424,000円

議員 386,000円

市長 820,000円

副市長 718,000円

教育長 637,000円

議員の期末手当 6月：230/100

12月；230/100

(4) 行政調査費

議員1人年額 90,000円

(5) 政務活動費

議員1人月額 12,000円



相生市での視察の様子

子育て応援都市宣言に至るまで

国の三位一体の改革の影響により、相生市の財政状況が危機的状況となる見込みとなり、平成17年3月に「相生市財政SOS宣言」を行い、「第1期相生市行財政健全化計画(平成18～22年度)」を策定、平成18年4月よりスタート。

《第1期行財政健全化の取組み》

持続可能な行政運営を図るために、平成17年度当初予算総額をベースに平成22年度予算額を約20%削減しました。

- その1 市民への受益者負担
(約267万円の増収)
- その2 投資的経費事業の見直し
(約20億円の削減)
- その3 繰上償還等による市債残高の削減
(約2億9千万円の削減)
- その4 職員数、人件費の削減
(43人減らし、約3億5千万円の削減)
- その5 下水管理センター、図書館業務などの民間委託
- その6 財政調整基金積立金の増加
(約7億5千万円の増加)

第1期計画目標は達成！！

その効果は27億6千万円

その中で、将来の人口減少を最重要課題として抽出する

国勢調査人口

調査年	人口(人)	増減(人)
S50	42,008	
S55	41,498	△ 510
S60	39,868	△1,630
H 2	36,871	△2,997
H 7	36,103	△ 768
H12	34,320	△1,783
H17	32,475	△1,845
H22	32,158	△1,317
H27	30,129	△1,029
R 2	28,358	△1,774

相生市の最高人口は、昭和49年の42,188人で、その後減少を続けている。

特に、年少人口(15歳未満)が県下でも最下位

年齢別人口の割合 ※平成17年国勢調査
(単位：%)

	15歳未満	15～64歳	65歳以上
相生市	12.3	62.3	25.4
赤穂市	14.6	62.8	22.2
たつの市	14.5	64.5	20.6
上郡市	13.4	62.4	24.2
佐用町	12.6	55.7	31.7
県平均	14.2	65.6	19.8
全国平均	13.8	66.1	20.2

2010年の人口をもとに人口問題研究所が予測する2040年の推計人口によると・・・相生市の年少人口の減少率は、

マイナス62%

30年後も、年少人口の割合は県下市町で下位のままである。

年少人口の減少は、将来の相生市の人口に大きく影響する。

【相生市子育て応援都市宣言】

(平成23年4月1日 宣言)

子どもは次代を担うかけがいのない存在であり、子どもたちが夢と希望をもち、健やかに育つことは、わたしたちの願いです。

子どもを産み育てやすい環境をつくり、

心豊かなたくましい人を育てることは、わたしたちの使命です。

わたしたち相生市民は、子どもの笑顔があふれ、子育てに喜びを実感できるよう、家庭、地域、学校、行政みんなが手を携え、地域全体で子育てを支えるまちを目指し、ここに「子育て応援都市」を宣言します。

【地域創生への取組】

平成23年度～

国に先駆けた子育て・教育支援、定住促進への取り組みを実施

☆出生数を維持

☆社会増減幅が約半分 ⇒概ね目標達成
～次のステージへ～

平成27年度～

子育て・教育施策・定住促進施策
+

地域資源を活用した交流人口の獲得や
地域経済の活性化

11の定住促進関連事業を「11の鍵」として、市内外へのPRを展開しています。

注) 事業費は、令和7年度当初予算額(千円)

1 あつまれ新婚さん新生活応援金

(定住促進室) 28,350円

市内で若年新婚世帯が新生活を始める際の住宅費用を、最大60万円補助する。加えて、継続して市内に3年間住み続けた場合、15万円を追加交付する。

2 住宅取得奨励金(定住促進室) 11,000円

市内に住宅を新築または購入した40歳未満で夫婦または子供を養育している世帯に25万円を助成する。

3 妊婦と子育て家庭のためのオンライン医療相談事業(子育て元気課) 3,960円

小児科医・産婦人科医・助産師にスマホで何度でも無料相談。

4 妊活カップル応援事業

(子育て元気課) 3,000円

体外受精及び顕微鏡受精を行う夫婦に対し、1クルールの治療あたり5万円を支給する。

5 妊婦のための支援給付金

(子育て元気課) 20,500円

出産のお祝いや育児用品等購入支援として、総額12万円を贈呈

妊娠：5万円、出産等：5万円×妊娠している子供の人数

出産祝い及び育児支援等：2万円×出産した子供もの人数

6 子ども医療費助成

(市民課) 74,226円

兼事業の医療費助成(一部負担あり)に加え、市単独で、18歳(高校生等)までの医療費を入院・通院共に無償化。

※0歳児を除き、所得制限を設けている。

市民税所得割額23万5千円以下

7 3歳児保育事業(管理課) 11,457円

私立幼稚園全園で、幼児期に基本的な生活な生活習慣を身に付けるため、3歳児保育を実施。

8 私立幼稚園預かり保育事業

(管理課) 9,355円

4歳児、5歳児を対象に通常保育終了後17時00分まで、無料で預かり保育を実施。

9 給食費無料化(学校教育課) 105,475円

私立幼稚園、小学校、中学校で栄養バランスの取れた給食の提供と給食費の無料化。

※幼265円/食、小275円/食、中335円/食

※中学校給食は平成20年度から、幼稚園給食は平成23年度からスタート。

10 相生っ子学び塾事業

(生涯学習課) 2,750円

児童の安全な放課後の居場所づくり、自主学習力と基礎学力の向上を目的に、地域の人々や教員OBの協力のもと、小学5、6年生を対象に、国語、算数、英語、プログラミングの教室を実施。

11 ワンピース・イングリッシュ事業

(学校教育課) 24,548円

幼児期から中学校卒業まで、段階に応じた英語教育のため、総合的なプログラムを実施。

※ふれあい英語活動=専属ALTの配置

いきいき英語教育＝コミュニケーション力の向上

相生っ子学び塾・英語＝月3回の実施
イングリッシュ・リーダース・トレーニング＝教職員のスキルアップのための研修を充実

英検チャレンジ＝市内小中学生の英検（5級以上）の検定料を半額補助

各種定住施策開始における反響は

《発表時の主な意見》

- 1 なぜ、子育て世代だけの支援なのか
- 2 食に関しては（給食費）は保護者が負担すべきではないか
- 3 高齢者福祉サービスが後退するのではないか
- 4 短期間で終わってしまうのではないか
- 5 財政的に続けていけるのか



◎第1期行財政健全化による効果を使い、財政状況についても、中長期のシミュレーションを行ったうえで実施。

◎高齢者・福祉サービスは維持。

※議会、市民等への理解を得るため、コスモトーク（市民対話集会）等を通じて説明。

市民の声～実施後～

◎幼稚園から配膳や食べ方の教育をしてもらいありがたい。同世代の子どもと給食を食べることで好き嫌いがなくなりました。

◎給食無料化は、地元の食材を多く使い、栄養バランスも考えられた給食で食育されることは、（サービスの直接支給なので）税金のばらまきとは違うと思います。絶対続けてください。

◎子供が小さいときは体調を崩しやすく、不安になることも多いので、医療助成があり、安心して病院に行けます。

賛成の声も多くはなっているが・・・

事業が続くのか財政面で不安視する市民の声はあるのも事実。ただし、発表時のような大きな反対の声はなくなっている。

転入者の声～相生に住んでみて～

◎子育てするにはとても良く、住みやすいです。

◎給食費無料、医療費助成などの支援があり、子供の教育にも熱心な市だと思います。

◎コンパクトにまとまっていて、バランスの良い町だと思います。

◎充実した子育て支援や定住施策もあり、住み心地は良いです。

◎静かな町ですが、交通面はしっかりしており、姫路や神戸へのアクセスも良いです。

◎山や海などの自然も多くあり、のびのびと子育てができそうです。

《今後の方向性》

子育て世代に対して「子育て応援都市、相生」が広がってきた。

最大の目標・・・定住者を増やすこと定住する場所として相生市を選ぶ理由としては教育・子育て支援及び定住促進施策のみでなく、住環境や交通の利便性などの要素も大きいと考えられる。



●平成28年度より、動画や他媒体を活用したプロモーション活動の本格実施により、「相生市」そのものの認知度を上げる。

●今後もPRと分析の継続が必要である。



相生市議会議場にて